



# 「社会が求める学校教育の在り方」について

東京都港区教育委員会  
区立幼稚園長・小中学校長対象  
平成 20 年度教育経営協議会  
研修会 資料

2008 年 12 月 9 日(火)  
10:00a.m. ~ 正午  
東京都港区立教育センター

林 明夫  
(社団法人 経済同友会, 幹事)



## 1. はじめに

### (1) 自己紹介

### (2) 本日の研修会の目的

経営とは

人材育成

関係者との連携

社会・企業が期待する学校教育

以上のテーマについて、経営品質の向上の観点から考える。

## 2. 経営とは

### (1) 経営とは、営みを経て目的を達すること。

### (2) 経営理念(経営にあたり価値あるものとして尊重すべきこと)

顧客本位

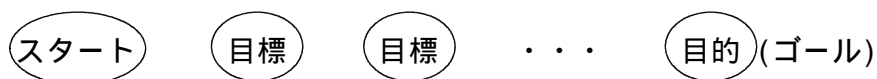
独自能力

社員重視

社会との調和

### (3) 「目的」達成のため「目標」を設定し、目標達成のために P D C A を回し続けることが「経営」と考える。

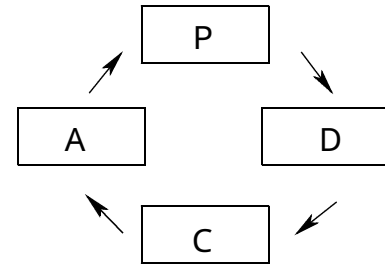
「目的」と「目標」(マイル・ストーン)



(ア) 「目的」とは「社会的使命」(mission ミッション)

(イ) 「目標」とは、「目的」達成のために1つ1つクリアしなければならない「マイル・ストーン」(一里塚)

- P D C Aサイクルを回すとは
- (ア) P (Plan プラン 計画)
  - (イ) D (Do ドウー 実行)
  - (ウ) C (Check チェック 検証)
  - (エ) A (Action アクション 修正)



P (Plan)は、「目標」を達成するために立てる「仮説」。

(ア)まず「仮説」を置き、ある前提条件や条件設定のときの最善策を立てる「計画」を構築するのが「知的能力」。

(イ)この計画を実行し、検証しながら状況に応じてどんどん修正し続け、スピーディ(迅速)に目標を達成するのが「組織能力」。

(ウ)「知的能力」×「組織能力」＝「目標達成能力」

(4)組織として「目標達成能力」を身に付けるために  
「競合比較」

「ベストプラクティスのベンチマーキング」

- (ア)社内(組織内)のベストプラクティスのベンチマーキング
- (イ)同業他社のベストプラクティスのベンチマーキング
- (ウ)異業種のベストプラクティスのベンチマーキング

仮説を立てる前提としての基礎知識を最先端で得るために、「競合比較」と「ベストプラクティスのベンチマーキング」を役職者ほど毎週のように行い続けること。

この後、「実験」をし、「修正」を繰り返しながら「全面展開」するのがビジネスの基本。

単なる「思いつき」でものごとを行えば、「人類初めての実験」と同じで、ほとんど失敗。

「暗黙知の共有化」をするためのしくみづくりを、P D C Aを回しながら得られた成功事例と失敗事例から組織として学び続けること。

(5) 戦略的意思決定

議論は自由に。耳に痛いことを言う人は尊い。

しかし、意思決定は責任者が一人で行う。

「問題点を先送りにしないこと」が最重要

但し、責任者は、意思決定に至った理由は丁寧に説明を。

〔説明責任(accountability アカウンタビリティ)を示すこと〕

3 . 人材育成

(1) 教育機関としての質とは

カリキュラムの質

教師の質

マネジメントの質

(2) 教育の成果を決定する要因とは

本人の自覚

教師の力量

本人の自覚を促すのも教師の力量

(3) 人材育成の手順

採用

研修

(ア)採用前

(イ)採用時

(ウ)3 ~ 10年

(エ)免許更新時

(オ)退職まで

開倫塾の場合 - empowerment(エンパワメント)による生産性向上、雇用の維持

(ア)能力強化

(イ)権限委譲

(ウ)employability(エンプロイアビリティ、雇われる能力)

- ・経営幹部としての employability
- ・マネジャーとしての employability
- ・一般社員としての employability

(エ)能力を強化し、不足する能力を補うのが研修

#### 4．関係者との連携

(1) 幼小連携

(2) 小中連携

(3) 中高連携

(4) 高大連携

(5) 大学との連携

(6) 企業・NPO との連携

(7) 地域社会との連携

## 5 . 社会・企業が期待する学校教育

(1) Key Competencies(キー・コンピテンシー)を身に付けること

キー・コンピテンシーのねらい

(ア)人生の成功

(イ)正常に機能する社会

内容

(ア)道具を相互作用的に用いる能力(知識基盤社会に対応)

(イ)多様な集団で交流する能力(グローバル化する社会に対応)

(ウ)自立的に行動する能力(大不況、超高齢化に対応)

前提

(ア) Learning To Learn(ラーニング・トゥ・ラーン)学び方を学ぶ能力

(イ)読書による熟慮・熟考・省察(reflection 振り返り)の能力の育成

NIE(新聞を教育に)による Critical Thinking (クリティカル・シンキング、批判的思考能力)の育成

## 6 . おわりに

(1)いつまでも若々しく生きる(中村天風先生)

(2)教育ある人とは学び続ける人(ドラッカー先生)

(3)一生勉強、一生青春(相田みつを先生)

(4)離見の見(世阿弥)

(5)健康第一(身体健康、心の健康)

- 自然と精神(ベイトソン) -

以 上

御清聴を感謝いたします。

2008年12月6日記